

# 感じたことを言う

～英語で表す五感～



## 学習のポイント

- 五感で感じたことを表現できる

英語監修・執筆 **鳥飼慎一郎**

## ■コミュニケーション

私たちは常に外界から刺激を受け、それを五感を通して知覚し、それが何であるのかを認識して生きています。目を通して（視覚）それがどのような色や形なのかを認識し、耳を通して（聴覚）それがどのような音なのかを認識し、鼻を通して（嗅覚）それがどのようなにおいなのかを認識し、舌を通して（味覚）それがどのような味なのかを認識し、皮膚を通して（触覚）それがどのような肌触りなのかを認識しています。英語にはこれらの五感に対応する語があります。

- 目を通して（視覚）認識する **look**  
This map looks very old. (この地図はかなり古そうね)
- 耳を通して（聴覚）認識する **sound**  
This time bell sounds soft. (この鐘の音色は柔らかい)
- 鼻を通して（嗅覚）認識する **smell**  
Garlics smell awful. (ニンニクはにおいがすごい)
- 舌を通して（味覚）認識する **taste**  
The new coffee tastes good. (新しいコーヒーは味がいいね)
- 皮膚を通して（触覚）認識する **feel**  
Your fur coat feels nice and smooth. (君の毛皮のコートは手触りがいい)

もちろんこれらの語の代わりに **is** を使って言ってもいいのですが、**is** は＝（イコール）と同じ役割ですので、**is** を使うと **This map = very old.** (この地図はとても古い) **The new coffee = good.** (新しいコーヒーはよい) のように断定的で確定した意味になります。「そのように見える」、「そのような味がする」、しかしながら本当のところはよくわからない、というのであれば、**look** や **taste** のような語を使います。

これらの五感を使ってある物を別の物で例えることもできます。子どものライオンを見て、ネコみたいだ、と思うでしょう。西洋人が初めて日本の川を見て滝のようだと言ったとされています。このように、ある物を別の物のように例えて、その形、音、におい、味、感触を表現することがよくあります。



～のように見える

look

This baby lion looks like a cat. (この赤ちゃんライオン、ネコみたい)

～のように聞こえる

sound

Sanshin sounds like a banjo. (三線はバンジョーみたいな音がする)

～のようなおいがる

smell

The onsen smells like sulfur. (その温泉は硫黄のようなおいがる)

～のような味がする

taste

It tastes like oolong tea. (それってウーロン茶みたいな味がする)

～のような肌触りがする

feel

This carpet feels like soft green grass. (新しいカーペットは柔らかな芝のようだ)

これらの表現はすべて **X look / sound / smell / taste / feel like Y** という形になり、**X** と **Y** に当たる部分には物の名前が入ります。どれも、ある物 (**X**) を別の物 (**Y**) で例えていることを表す言い方です。

### ■単語や表現

Guess what? (何だと思う?)

この文は相手に質問をしているのでしょうか。あるいは相手に～するように言っているのでしょうか。両方にとれる文です。**Guess** とは、「推測する、想像する」という意味です。この文は **Guess what it is.** あるいは **Guess what they are.** が短くなった文です。会話などの冒頭で、「ねえ、ねえ、聞いてよ」などと相手の注意を引くときに使います。

**A : Guess what? I will enter the beauty contest.**

(ねえ、聞いて、私今度美人コンテストに出るの)

似たような表現に、**Say when?** があります。これは飲み物などをつぐときなど、つぐほうがつがれるほうに対して「もう十分だと思うところで合図してくれ」という意味です。

**A : Say when?** [と言ってつぎ始める]

**B : (十分だと思ったら) Thank you. (あるいは) That's enough.**

果物の名前にはおもしろい由来があります。今回出てきた **grapefruit** は、ブドウ (**grape**) のように実がなることから **grape + fruit** と名付けられました。似たような名前に、**pineapple** があります。形が松ぼっくり (**pine**) に似ていることから、**pine+apple** です。**strawberry** は、地面をはっているイチゴの枝が麦わら (**straw**) に似ていることから **straw + berry** となりました。さらにおもしろいのは、ミカンです。ミカンは英語で **mandarin orange** と呼ばれますが、この **mandarin** とは清朝時代の官吏のことを指します。その官吏の着ていた服の色が黄色いミカンのような色であったために、この名が付けました。ミカンは **tangerine (orange)** とも言われます。**tangerine** とは色の濃いだいだい色のポンカンのことです。日本のミカンは英語で何と **Satsuma** 呼ばれています。もちろん「薩摩」、今の鹿児島県のことですが、鹿児島原産の温州ミカンのことを英語では **Satsuma** と呼んでいるとは驚きです。明治初期にこう呼ばれるようになったといわれています。

## ■英語のきまり

What does it look like?

How does it look? は、どう違うのか

It looks like a cat. (それはネコのように見えます)

It looks like what. (それは [?] のように見えます)

What does it look like? (それは何のようになりますか?)

It looks pretty. (それは美しいです)

It looks how. (それは [?] です)

How does it look? (それはどう見えますか?)

前回学習したように、**What is it look like?** は、**It looks like a cat.** の **a cat** の部分を質問するための文です。物の名前を聞いているので、**what** が使われています。一方、**How does it look?** は、**It looks pretty.** の **pretty** の部分を質問しています。どういうふうなのかを聞いているので **how** が使われています。

## column

## 単語を発音してみよう ⑪

## tl

英語の **t** と **l** が連続する発音は日本人にとっては難しいものです。 **t** と **l** を別々に発音すると間に無用な音が入ってしまいます。うまく発音するコツは、 **t** を発音するとき舌先を上歯の歯ぐきから離して発音するのではなく、舌の両脇を開いて息を出し、一気に **l** の発音に入ることです。このように書くと難しく聞こえるかもしれませんが、 **t** の発音をするためにいったん舌で息が口から出ていくのを止めますが、そのときに舌全体を下げて息を口から出すのではなく、舌の両脇の力を抜いてそこから息を出すようにします。そのときに舌先は歯ぐきに付けたままにしておきます。慣れると簡単に **t** と **l** の発音が連続して出せるようになり便利です。

**little** リトルとならないように、 **l** と発音した後の **t** を発音するとき舌先を歯ぐきに付けたまま舌の両脇を開けて一気に **l** の発音をします。リトウというように聞こえるでしょう。

**kettle**、**bottle**、**title** どれもケトル、ボトル、タイトルとならないよう、 **t** と **l** の部分は舌先を歯茎に付けたまま、舌の両脇を開けて、一気に **t** と **l** の発音を連続して行います。そう発音すると、ケトウ、ボトウ、タイトウと聞こえるような発音になります。

